

| | | | | | |
|----------------------------|--|---|---|---|---|
| 教科 | 家庭 | 科目 | 家庭総合 | 単位数 | 2 |
| 学年 | 2年 | 類型 | 流通経済科・情報ビジネス科 | | |
| 教科書(出版社) | 家庭総合 ～自立・共生・創造～ (東京書籍) | | | | |
| 副教材(出版社) | 家庭科ノート (愛媛県高等学校家庭科教育研究会) | | | | |
| 授業の概要 | (1) 人の一生と家族・家庭 (2) 子どもや高齢者との関わりと福祉 (3) 生活の科学と環境(衣生活) (4) 消費生活と環境 (5) ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動の5項目で構成する。これらの内容については、実践的・体験的な学習活動を中心とし、相互に有機的な関連を図りながら展開する。 | | | | |
| 授業の目標 | 1 人の一生と家族・家庭、子どもや高齢者との関わりと福祉、衣生活、消費生活に関する知識と技術を総合的に習得する。 2 学習した知識や技術を生かし、家庭や地域の生活課題を主体的に解決する態度を育成する。 3 家族や社会との共生を目指し、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。 | | | | |
| 年 間 学 習 計 画 | 学習内容(単元・項目) | | 学習目標 | | |
| | 1 学 期 | ○高校の家庭科について 1 経済生活を営む (1) 職業生活を設計する (2) 計画的に使う (3) 国民・国際経済と家庭の経済生活 (4) 消費行動と意思決定 (5) 現代の消費社会 (6) 消費者の権利と責任 (7) これからの消費生活と環境 ○ホームプロジェクトについて | ・家庭科で何をどのように学ぶか、学習活動について知る。 ・ホームプロジェクトの計画 ・家計管理の重要性を認識し、ライフステージごとのポイントを知る。 ・国際化・複雑化している経済社会と家計との関係を理解する。 ・契約や消費者信用、多重債務問題などを学習し、消費者として適切な判断ができるようにする。 ・消費者の権利と責任を理解する。 ・持続可能な生活について考える。 | | |
| | 2 学 期 | ○ホームプロジェクトの発表 2 衣生活をつくる (1) 衣服をつくる (2) 衣服の役割を考える (3) 衣服を入手する (4) 衣服を管理する (5) 衣生活の文化と知恵 (6) これからの衣生活 3 子どもと共に育つ (1) 命を育む (2) 子どもの育つ力を知る。 | ・平面構成と立体構成の違いを学ぶ。 ・被服製作の基本事項を確認し、自分に合った被服の製作ができる。 ・被服の様々な役割を理解する。 ・被服材料の特徴を理解し、被服に適した選択や保管方法を知る。 ・出産前後の健康管理と子どもの発達の様子・発達段階を知る。 ・人生の初期における親・家族や周囲の人々の関わりの大切さを学ぶ。 ・遊び、基本的な生活習慣の形成、健康管理について学ぶ。 | | |
| | 3 学 期 | (3) 親として共に育つ (4) これからの保育環境 4 自分らしい人生をつくる (1) 生涯発達の視点 (2) 青年期の課題 (3) 目標を持って生きる (4) 人生をつくる (5) 家族・家庭をみつめる (6) これからの家庭生活と社会 5 高齢社会を生きる (1) 高齢期を理解する (2) 高齢者の心身の特徴 (3) 高齢者を支える (4) これからの高齢社会 | ・愛着の形成と親としての成長を理解する。 ・児童福祉の理念を理解し、子育て支援の現状を学ぶ。 ・各ライフステージの特徴と課題を理解し、生涯発達の観点から今の自分を客観的に見つめる。 ・固定的な性別役割分業意識を見直し、男女が相互に協力して家庭を築き、家族関係をつくる必要性を学ぶ。 ・家族・家庭の基礎的な法律を学習し、現在の動きを知る。 ・家事・職業労働の特徴からワークライフバランスを考える。 ・高齢社会の現状と課題を理解する。 ・高齢期の特徴を知り、個人差が大きいことを理解する。 ・高齢者を支援する具体的施策や福祉について学ぶ。 | | |
| 観 点 別 評 価 | 関心・意欲・態度 | 思考・判断・表現 | 技能 | 知識・理解 | |
| | 人の一生と家族、子どもの発達と保育、高齢者の生活と福祉、衣生活、消費生活と環境などに関心を持ち、その充実向上を目指して意欲的に取り組むと共に、実践的な態度を身に付けようとしているか。 | 人の一生と家族、子どもの発達と保育、高齢者の生活と福祉、衣生活、消費生活と環境などについて見直し、生活課題を主体的に解決するために思考し、適切に判断し、工夫創造する能力を身に付けているか。 | 人の一生と家族、子どもの発達と保育、高齢者の生活と福祉、衣生活、消費生活と環境などに関する基礎的・基本的な技術を総合的に身に付けているか。 | 人の一生と家族、子どもの発達と保育、高齢者の生活と福祉、衣生活、消費生活と環境など、生活を充実向上するために必要な知識を総合的に身に付けているか。 | |
| 備考 | 4つの観点に基づき、各学期ごとに100点法で評価し、学年末には各学期の評定を平均し、総合的に評価する。 | | | | |